

水中の生物

■水温は気温より後から低下する

気温が低くなったが、水は比熱が大きいので温まりにくく冷めにくい。干潟でのカニ類の活動は見られなくなったが、水中では生物が活動する様子が観察できた。Fig.1は導流堤の七北田川に面した側にあるカキ礁で観察したケフサイソガニである。餌と思われる白い塊を抱えている。観察を続けていると、他のケフサイソガニが近づき、白い塊を奪おうとする様子が見られた。

Fig.2は、干潟内で、カキのむき身を水中に落とした様子である。Fig.2の左側にある白い物がカキのむき身である。観察をしていると、右の岩陰から魚類が顔を出す様子を観察できた。



(Fig.1 ケフサイソガニ)



(Fig.2 岩陰から顔を出す魚類)



■冬羽のミュビシギ

導流堤で冬羽のミュビシギを観察した (Fig.3)。冬羽は白・灰色の体色だが、夏羽は赤褐色になる。多くの個体は後指がないため「ミュビ」と呼ばれる。導流堤付近では、流れの弱いところを選び、マガモが休む様子も観察した。

(Fig.3 ミュビシギ)